

令和6年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 3年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、筆者の考えを理解し、それに対して自分の感想や考えをもつこと。 文章を読んで感じたことや考えたことを共有する活動を通して、印象に残った箇所や感じ方などが一人一人違うことに気付くこと。 漢字を正しく丁寧に書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構造（はじめ・中・おわり等）に基づきながら、筆者の考えを読み取れるようにする。分かったことや、自分の感想などが書けるようにする。 文章を読んで、互いの感じたことや考えたことを交流する時間を設ける。他者の感じ方と自分の感じ方を比較し、違いやよさに気付くことができるようにする。 漢字ドリルを活用し、毎日の練習で漢字の定着を図る。また、文や文章を書くときは、既習漢字を正しく使えるように繰り返し指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学校の周りの様子について、地形や土地の利用、交通の広がり、公共施設の場所と働きなどについて観察したり地図や資料を調べたりして、身近な地域の様子を理解し、特色を考えること。 文京区の様子、地域に見られる仕事について、調べ、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実際の写真や動画などの資料や、実際に見学したりする機会を準備する。子供たちの気付きを生かしつつ、必要な視点を補えるようにする。 一人一台のタブレットを活かし、調べ学習を充実させる。まとめる際に、資料を印刷したり、調べたことを発表するソフトの利用を取り入れたりしながら、主体的に学べるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を正しく理解し、発展的な学習の場面において正しく立式すること。 学習したことを日常生活と関連付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を確認して問題解決させたり、問題場面に戻って確認させたりする。 特に発展的な場面や単元のまとめとなる場面において、算数を身近に感じたり学んだことを生かしたりさせ、学んだことと日常生活を関連付けるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での気付きを元に疑問をもち、それらを解決するために、実験に取り組み、気付いたことから結果を求め、考察につなげること。 根拠をもった実験を行い、適切な結果を求めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題」⇒「予想」⇒「実験」⇒「結果」⇒「考察」の流れをもち、特に「課題」と「予想」を広げ、主体的に授業に取り組めるようにする。 その実験や観察の意図を意識できるよう、適宜声掛けをしたり、全体で確認したりする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、基本的な動きや技能を身に付けること。 協力、公正などの態度で運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な発言をもとにルールを考えたり、活動の場を工夫したりする。また、技能を向上させる方法を指導することで、運動の楽しさを味わい、基本的な技能を身に付けられるようにする。 準備や片付けを協力して行う姿勢や、決まりを守ったり勝敗を受け入れたりする態度を指導する。 ルールの改善や場の工夫を話し合う際には、時間を確保する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めたり、実生活につなげたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりで、ねらいについての児童の考えが深まったり変化したりしたことが分かるよう板書の仕方を工夫する。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。 実生活と繋げながら考えを深めることができるよう、ノートに記述させるようにする。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて資料を集め、必要な情報を適切に抜き出しまとめること。 I C Tが活用できる場面を見付け、効果的に活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら探究した課題について明らかにして、図書やI C Tなどを活用する。その中で、自身の課題にあった資料を見つけられるようにする。 I C Tの活用方法を全体で確かめる場面を設けるとともに、活用場面を例示する。

<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語との音声の違い等に気付き、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら聞き取れるようにする。 ・ゲームや歌、チャンツを通して楽しみながら語句を習得できるようにする。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて、道具の使い方の技術の定着を図る。 ・様々な材料の経験をさらに積み上げていく中で、表したいことを自分なりに考えたり、深めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の扱う際には、安全に留意したポイントを明確にし、写真とともに掲示する。また、電子黒板を活用し、ICT機器で手元を大きく見せたり、動画で使い方の手順が分かりやすいようにしたりする。 ・材料や用具の活用、導入の工夫をし、作り出す喜びの経験を積み重ねる。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。 ・音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 ・すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。特にリコーダーの奏法を身に付けることができるように、一人ずつ聴く機会や発表の方法を工夫する。自分や友達の声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。 ・音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫につなげるように声かけする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切にし、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やす。 ・互いに聴き合ったり、友達と合わせたりする楽しさを味わえる活動を増やす。表現、鑑賞の活動をバランスよく行い、生活と音楽の結びつきを意識できるようにする。器楽ではタブレット端末を使用し、個に応じた取り組みができるようにする。